

1. 調査報告概要表

作成日平成21年11月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1070201825
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社
事業所名	グループホーム さんご
所在地	群馬県高崎市石原町4273-1 (電 話) 027-324-3525
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成21年9月7日

【情報提供票より】(21 年 8 月 15 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 6.8 人	

(2)建物概要

建物構造	木造 平屋建て 1 階部分
------	------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	費500円/月、その他
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無) 円	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食 200 円 夕食 300 円 または1日当たり 円	昼食 300 円 おやつ 60 円	

(4)利用者の概要(8 月 15 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	80 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	岩田内科クリニック・吉井歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームに何うと利用者と職員の笑顔が飛び込んできた。家庭的な雰囲気の中で、利用者が動いたり、何か音が聞こえてくると職員はすぐに反応している。日常の職員の動きの良さが分かる。地域とは散歩時の挨拶等で施設への理解を促し続けてきている。その結果、野菜や花をいただいたり、災害・緊急時の協力体制やいきいきサロンや地域交流の花見にも出席させてもらい関係性が良好である。利用者にとっては住みやすいホームと地域になってきている。利用者の安心した笑顔と地域住民との交流で張りのある生活を提供しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 現状に即した介護計画の見直しでは月に1度のモニタリングを行い改善されている。栄養摂取や水分確保の支援は摂取量が記録され改善された。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回の改善事項はすぐに取り組み改善した。今回の自己評価票は現場職員にコピーを渡し各自に書いてもらい、管理者が取りまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ホームの活動状況報告やAED訓練、インフルエンザ対策や認知症サポーター研修、介護サービス情報の公表制度について等で多岐に渡る。離苑についての話し合いがされ、実際に離苑があったが民生委員がとっさの判断で見つけてくれ運営推進会議が活かされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 行事を利用し家族会を開催している。気軽に意見が出せるように身近な材料を提供している。苦情受付窓口がある。出された意見や要望等には、職員間で話し合い、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域のいきいきサロンに利用者1~2名が参加している。保育園児が慰問に訪れているがホームからお手玉を持参し保育園に出かけ交流を図っている。自治会の班長を引き受け、AEDの講習や地域の行事・奉仕に参加して地域との関係を良好に保てるように努力もしている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所がめざす地域密着型サービスのあり方を端的に示した、独自の理念を作り上げ、継続している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は申し送り時等で理念を唱和し常に意識している。日々の生活の場においても、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園との双方向の交流、地域の慰問ギターの受け入れ、いきいきサロンの利用者参加、班長を引き受けたり、地域行事の参加や奉仕、民生委員や区長との付き合い等で地域との関係が良好に築かれている。また、地域住民とは散歩時の挨拶や野菜を頂くこともある。AEDを設置し、講習会も行い地域への還元の用意もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解しており、前回の外部評価結果については話し合い改善に至っている。今回の自己評価についても職員に記入してもらい、まとめたものを管理者が記載している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催されている。ホームの活動状況報告やAED講習、インフルエンザ対策や認知症サポーター研修、介護サービス情報の公表制度、離苑について等で多岐に渡る。実際に離苑があったが民生委員の協力で保護ができたことから、実際のサービスに反映されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市への報告義務書類やボランティア要請等が出かけているが、それ以外はなかなか連携が取れてはいない。	○	法人が市との窓口になっているので、単体として連携を図るのが難しいのは察することが出来る。しかし、日常の報告等で市に出向き小さなことから努力してほしい。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り「さんご便り」を発行し、行事や生活の様子等を家族等に報告している。毎月の個別の収支会計報告や身体状況・往診結果を報告している。職員勤務表と顔写真付きの職員紹介表も掲示してある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事を利用し家族会を開催している。気軽に意見が出せるように身近な材料を提供している。苦情受付窓口がある。出された意見や要望等は職員間で話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への不安やダメージに配慮し、職員の異動や離職は最小限に抑えるよう努めている。代わる場合には、利用者・家族等に挨拶し、一週間位(夜勤は2～3回)先輩職員が基本的な対応の指導しながら共に支援にあたり、なじみの関係を大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修の他に、認知症介護実践者研修、在宅ケアを考える市民ネットワーク主催の研修、に参加している。研修参加者は職員会議で内容を報告して、全員で共有できるようにしている。西毛ブロック研修、救命救急講習等に職員が参加している。研修参加者はミーティングで報告を行い、資料は全員で閲覧し共有化を図っている		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入している。グループホーム大会で研究発表をしたり、西毛ブロック研修会に参加している。レベルアップ研修の受け入れの予定等もあり、同業者と交流する機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に施設見学をしてもらい、利用者との良い人間関係を結んでもらえるようにしている。一人ひとりに合わせた対応をしながら徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に問いかけを多くして、昔の慣わしや風習のお供えや季節のお料理を聞いて、教わることが多い。料理作りは手伝ってもらっている。会話の中から昔の知恵を聞いて、人生の先輩であるという気持ちを持って、良い関係を保つように意識して接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに問いかけて意向の確認をしている。聞き取れないときには家族から情報をもらっている。新聞を取っていたり、テレビのニュースを見たり本人本位で日常を過ごしてもらえるようにしている。食事等の大まかな時間は決まっているが、個人の自由な時間を尊重している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見を取り入れ介護計画に反映させるようにしている。職員会議の後、カンファレンスを行っている。職員は担当制で利用者1人～2人を受け持っている。それぞれの意見や気づきを反映した介護計画をケアマネジャーが作成しご家族の了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1度のモニタリングを行い、介護計画の見直しは3ヶ月に1度と状態の変化に応じて、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族等の意見や状況に応じて、受診・通院や買物等必要な支援に対応している。また「あやの会」の練習の場として近隣の住民が利用できるように協力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人・家族等の意向を確認し、同意を得て、希望するかかりつけ医で適切な医療を受けている。緊急時はかかりつけ医の指示か救急車の対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期における指針を示している。家族等から出来るだけ早めに方向性を聞くようにしている。希望が出たときにはカンファレンスを開き、家族・医師・訪問看護・職員と話し合い、望まれたケアを提供したいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応等で一人ひとりの尊厳を傷つけないよう、職員全員で注意して対応している。名前は家族と本人の了解を得た呼び方を使っている。個人記録書類等は事務所で一括管理している。入職時に職員とは個人情報保護に関する誓約書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな食事時間以外は一人ひとりの好きな時間の過ごし方を、健康状態を勘案しながら支援している。散歩等もボランティア等の協力を得て、希望に添えるように支えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
tok					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒にテーブルを囲んで食事している。利用者の希望を取り入れたメニューが提供されている。お鮎やカツを買ってきてホームで食べる楽しみの用意もある。日々の献立が掲示されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できることを伝え、毎日入浴できる体制がある。体調や希望により支援し、仲の良い利用者同士で楽しく入浴できるような支援もある。最低週に2回は入浴し、足浴・シャワー浴も等でも支援している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴・力量を把握し、モップかけ・おしぼりたたみ、食器吹き、新聞取りの役割や、折り紙、花活け、畑仕事の手伝い、水遣り、草むしり、野菜の収穫等の楽しみごとがある。気晴らしの支援では散歩、花見、ギター演奏、書道、誕生会、外を眺めたりの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調・希望に応じて、散歩等で日常的に外出し、近所の方から花や野菜等をいただき気分転換が図られている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はついていない。施錠しないように取り組みをしてきたが、家族会からの要望で玄関はその日の状況(管理者不在等)により鍵をかけている。職員は鍵をかけることの弊害を理解し見守り強化等の対応をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消火・通報・避難訓練の自主訓練と総合訓練を行なっている。緊急連絡網と緊急時マニュアル、自衛消防隊組織図で周知徹底を図っている。近隣の向かい3軒に緊急時の協力依頼をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた家庭料理を基本に提供している。食事量や水分量(1日の目安はおおよそ1000～1200CC)はチェック表に記載し、職員は情報を共有しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓の外には桜の木があり季節を感じ取ることが出来、天井からは明かりが入りやわらかい雰囲気が出ている。室内は清潔感があり、畳の部屋とテーブル・ソファ・テレビ・カレンダーや日ごろの作品が飾られている。居心地よく過ごせる共用空間が確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッド・椅子・たんす・テーブル・造花・人形・着物・家族の写真・お習字の作品・手鏡等の馴染みのあるものや好みのものが持ち込まれており、本人が落ち着いて過ごせる場所となっているように見受けられた。		